

1. TEPCO 環境行動レポート 2004 の特徴

(1) 原子力について皆さまとともに考える特集を掲載 (8~16 頁)

昨年の原子力発電所の運転停止により、CO₂の排出量増加、安定供給に対する不安感、火力燃料費の増加など、「環境」「社会」「経済」の各面に及ぼした影響を改めて整理するとともに、今後皆さまとともに原子力発電を考えていくための情報を分かりやすくまとめて特集いたしました。また、原子力不祥事の再発防止対策として 2002 年 9 月に公表し、全社を挙げて取り組んでいる「4つの約束」について、現在の取り組み状況を掲載いたしました。

(2) 「持続可能な発展に向けたロードマップ」を掲載 (6~7 頁)

当社は、エネルギーの最適サービスを通じて豊かな環境の実現に貢献することを経営理念として、さまざまな社会的な課題に取り組んでおります。こうした取り組みについて、会社発足以来のあゆみを発足直後の「電力不足の解消」、公害問題が深刻化した時代の「社会的経営の体現」、石油ショック後の「エネルギーの安全保障の確立」などを、当時の社会情勢とともに整理いたしました。さらに今後の取り組みの方向や将来ビジョンについて、将来目標や「東京電力経営ビジョン」(2001 年 3 月策定)をご紹介します。過去から未来へとつながっていくロードマップとして取りまとめました。

(3) 社会編の充実 (50~64 頁)

当社の社会活動の基本方針である「東京電力企業行動憲章」を掲載するとともに、取り組みの実績を一覧表にまとめました。また、社外の皆さまとのコミュニケーション活動の内容を充実いたしました。

(4) 経済編の充実 (66~72 頁)

当社の経済活動の基本方針である「競争を勝ち抜く企業体質の実現とトータルソリューションビジネスによる事業展開」を掲載するとともに、新たに資材調達額や電源立地に伴う地元における雇用創出など、経済波及効果についてもご紹介しております。

(5) 第三者レビューの充実 (86~87 頁)

当社は、環境経営のあり方ならびにレポートの作成にあたり、従来から読者の皆さまや東京電力環境顧問会からご意見をいただいておりますが、さらなる信頼性確保のため、「環境行動レポートに関するフリートークの会」を開催し、今回新たに NPO の方々からもご意見をいただきました。また、「人と組織と地球のための国際研究所」代表の川北秀人様による第三者意見書、環境経営格付機構 (SMRI) による「2003 年度環境経営格付」の結果についてもご紹介しております。

(6) レポート製作にともなう環境負荷の低減

印刷・製本にあたり、国産の間伐材パルプ 10%と市場回収古紙 90%から作られた「間伐紙」を初めて全編にわたって使用いたしました。間伐材の活用は、国内林業界の活性化に寄与するとともに、京都議定書の CO₂削減のための「森林管理」にも貢献し、地球温暖化防止の効果も期待できます。